

「高田駒次郎先生を偲んで」



西南学院大学学長 村上 隆太

高田駒次郎先生が召天されて、早や10年が経ちました。生きておられたら、今年で確か72才になられたはずですが、72才の駒次郎先生はどんなご様子だろうかと思像してみますが、どうもぴんときません。61才以前の面影が強すぎるせいかも知れません。

私の記憶の中にあるのは、学術研究所の事務室で職員に話し掛けておられる先生です。若干遠くからでも「あ、高田先生！」とすぐにわかる大きな声でした。しかし、温厚な先生は、教授会では決して大きな声を出されることはありませんでした。道ですれ違うと、先生は必ずにこっと会釈されました。そのお人柄故に推薦されて商学部長を務められましたが、残念ながら1年後の1992年に亡くられました。本当は、学校の運営より、学生相手に授業をしたり少人数で談話する方が、余程楽しいと思っておられたのではないのでしょうか。

学生たちの人気は抜群で、先生のお人柄に惹かれてゼミを志望する学生は多く、野球部の部員、OBに慕われておられる様子を大変羨ましく思っていました。高田ゼミ生が出す「駒うどん」は、大学祭の定番でした。気持ちが若くきさくで飾らない先生を、大学教授というよりは、長兄という感じで学生たちは尊敬していたのでしょう。貫禄のある風格をお持ちでしたが、冗談ばかり言って人が笑うのをにこにこ楽しんでおられました。特に、同窓会などでは、必ず例の博多にわかで締めくくることが高田先生流で、楽しませていただきました。恐らく先生の博多弁は、心をそのまま伝える言葉だったのでしょう。

学内では、緑の硬式野球部のジャケットを着て歩いておられる姿も、時々お見かけしました。ユニフォーム姿の颯爽として長身の先生が、格好良く見えたものです。昭和28年に大学学芸学部を卒業された先生は、学生時代も野球でならした大先輩でありました。西南学院大学で教鞭をとられるようになると、同窓会には必ず先生のお姿がありました。母校への忠誠心は厚く、母校への思いを学生たちに伝えておられました。西南学院学内同窓会支部長をされたのも、多くの会員から支持されてのことでした。

先生は西南学院バプテスト教会の会員でもあり、奥様とご一緒によく教会の礼拝に出席しておられました。教会では市内を幾つかの区域に分けて、その地域の会員宅で礼拝と懇談の集会を年に何度か行っていますが、高田先生宅は室見地区に所属し、よくご自宅を地区会に開放しておられました。奥様と先生の心のこもったおもてなしに恐縮しながら、皆で楽しいひと時を過ごした思い出もあります。そのご自宅に、弔問に伺うことになるとは夢にも思いませんでした。神様のなさることは分かりません。

今は、先生の天にあっての平安と、奥様、ご家族の皆様のご健勝をお祈り申し上げる次第です。